

研究・調査報告書

| | |
|--|---------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 316 | 独立行政法人酒類総合研究所 |
| 題名 (原題/訳) Alcohol Consumption Is Associated with Decreased Insulin Resistance Independent of Body Mass Index in Japanese Community-Dwelling Men 地域在住の日本人男性においてアルコール摂取はボディマスインデックスとは独立してインシュリン抵抗性の低下と相関がある | |
| 執筆者 KAWAMOTO Ryuichi, KUSUNOKI Tomo, ABE Masanori, KAWAMOTO Ryuichi, OHTSUKA Nobuyuki, KUSUNOKI Tomo, KOHARA Katsuhiko, TABARA Yasuharu, MIKI Tetsuro | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) Tohoku J Exp Med Vol.218 No.4 Page.331-337 (2009) | |
| キーワード 日本人男性、アルコール摂取、ボディマスインデックス、インシュリン抵抗性 | |
| 要 旨 <p>アルコール摂取は II 型糖尿病と心臓血管疾患の危険性の減少と相関がある。しかし、アルコール摂取とインシュリン抵抗性との間の関係についての多くの論議がある。この関係は体重レベルの増加によって、さらに混乱する可能性がある。本研究の目的は、地域在住男性において体重レベルに応じてアルコール摂取がインシュリン抵抗性を促進するかどうかを究明することである。</p> <p>脳卒中、一過性脳虚血発作、心筋梗塞、狭心症あるいは糖尿病の病歴のない被験者を年次健康診断時に一地域からランダムに集めた(678名の男性、年齢 59±14歳)。被験者を非飲酒者、軽度飲酒者 [<1 単位(22.9g エタノール)/1日]、中程度飲酒者(1-1.9 単位/1日)と大量飲酒者(≥ 2 単位/1日)に分類し、さらに痩せ [ボディマスインデックス(BMI)$<23\text{kg/m}^2$] または太りすぎ(BMI$\geq 23.0\text{kg/m}^2$)に分けた。インシュリン抵抗性は homeostasis model assement of insuli resistance (HOMA-IR)に基づいて試算し、HOMA-IR と潜在的交絡因子を群間で比較した。交絡因子は年齢、BMI、喫煙状態、血清ガンマグルトミルトランスフェラーゼと高分子量アディポネクチンを含む。</p> <p>全体として、HOMA-IR は年齢、BMI、血清ガンマグルトミルトランスフェラーゼと高分子量アディポネクチンと有意に相関していた。潜在的交絡因子で調整後、BMI のカテゴリーに関係なく、平均対数 HOMA-IR は大量飲酒者において有意により低くなる。</p> <p>結果として、アルコール摂取は日本の地域在住男性において BMI と非依存的にインシュリン抵抗性の低下と相関があることがわかった。</p> | |